

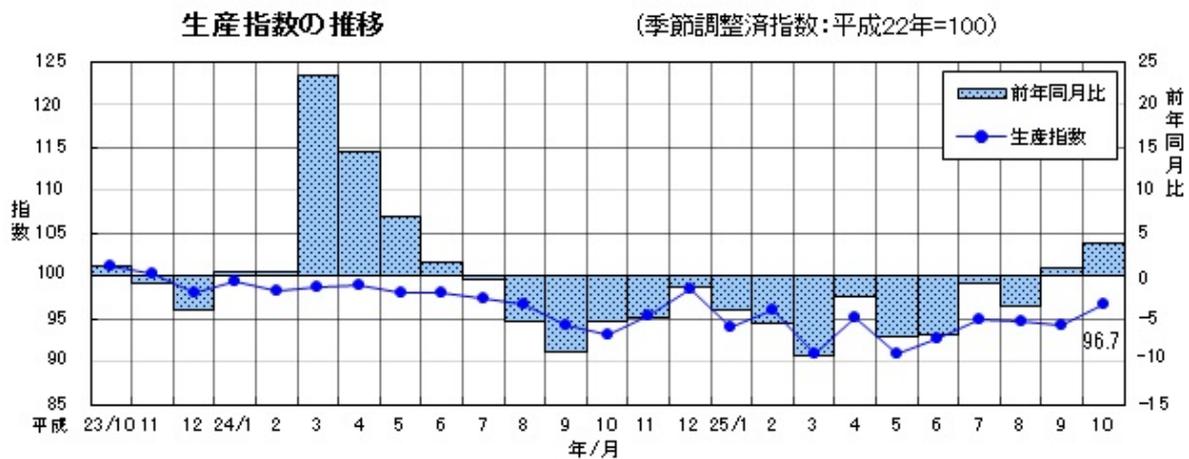
静岡県鉱工業指数 (平成25年10月分速報)

1 生産指数の動き

10月の鉱工業生産指数(季節調整済:平成22年=100)は**96.7**となり、**前月比は2.7%増と3か月ぶりに上昇した**。

また、**前年同月比(原指数)は3.7%増と2か月連続して前年を上回った**。

業種別の前月比(季節調整済指数)では、電気機械、食料品・たばこ、輸送機械等が上昇する一方、窯業・土石製品、情報通信機械、繊維等が低下した。

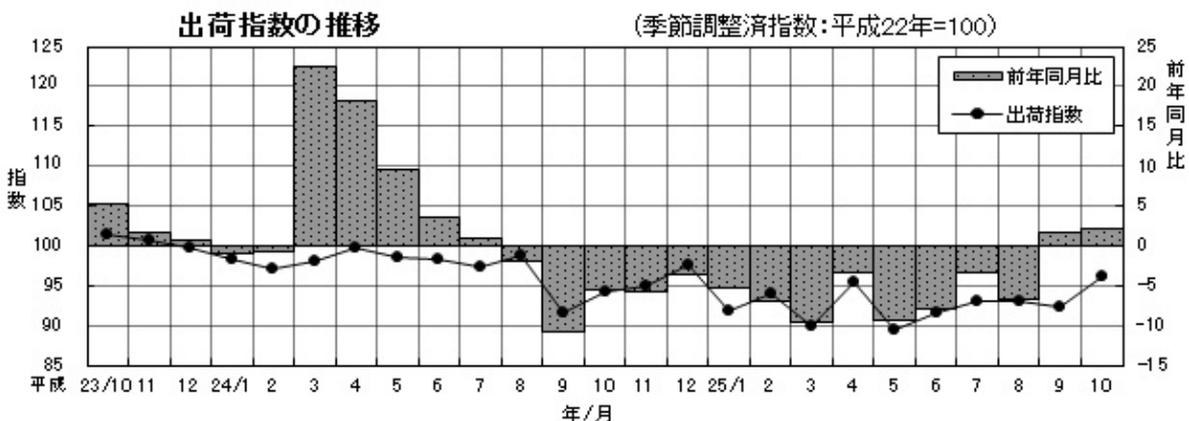


2 出荷指数の動き

10月の鉱工業出荷指数(季節調整済:平成22年=100)は**96.2**となり、**前月比は4.2%増と2か月ぶりに上昇した**。

また、**前年同月比(原指数)は2.1%増と2か月連続して前年を上回った**。

業種別の前月比(季節調整済指数)では、輸送機械、食料品・たばこ、電気機械等が上昇する一方、はん用・生産用・業務用機械、情報通信機械、その他製品等が低下した。

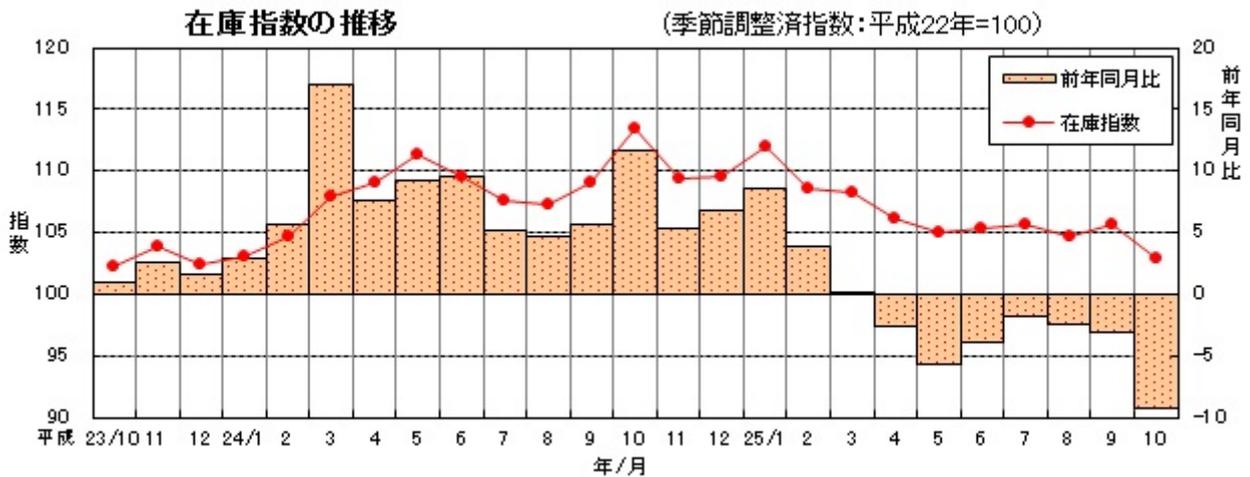


3 在庫指数の動き

10月の鉱工業在庫指数（季節調整済：平成17年=100）は102.9となり、前月比は2.6%減と2か月ぶりに低下した。

また、前年同月比（原指数）は9.3%減と7か月連続して前年を下回った。

業種別の前月比（季節調整済指数）では、化学、その他製品、ゴム製品等が上昇する一方、輸送機械、食料品・たばこ、窯業・土石製品等が低下した。



※鉱工業指数の基準改定について

今回公表の10月分指数より、**基準年次を平成17年から平成22年に改定**した。

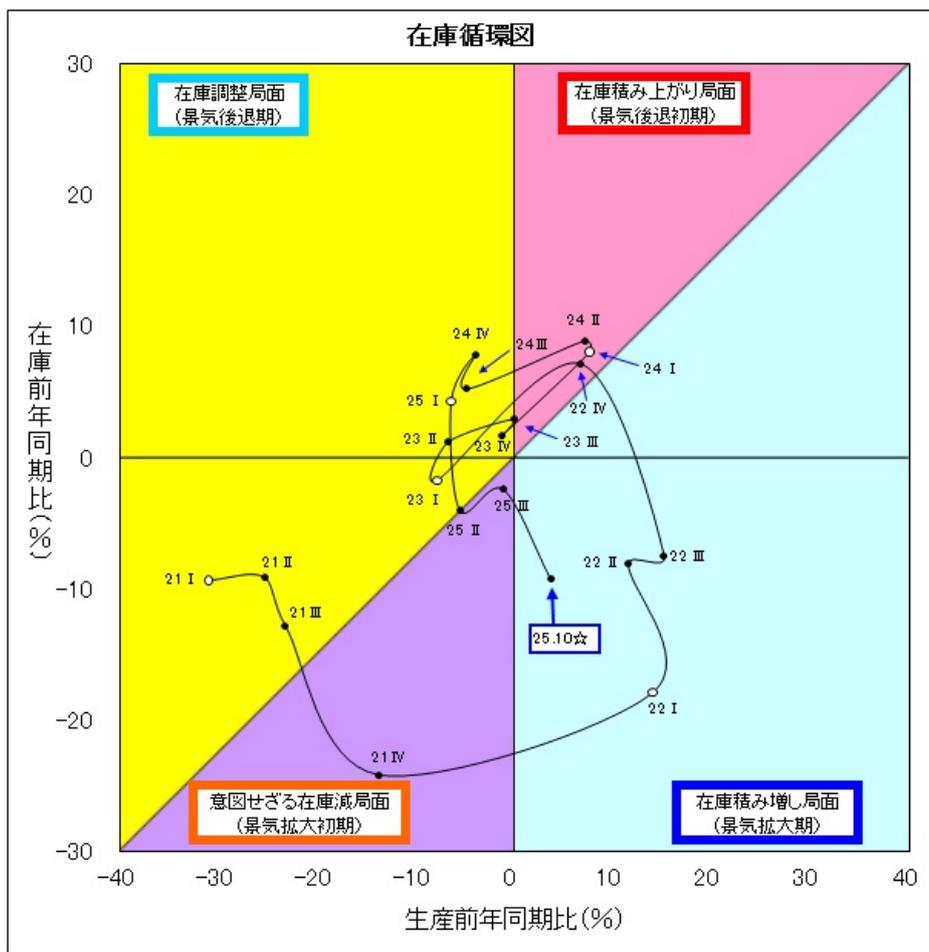
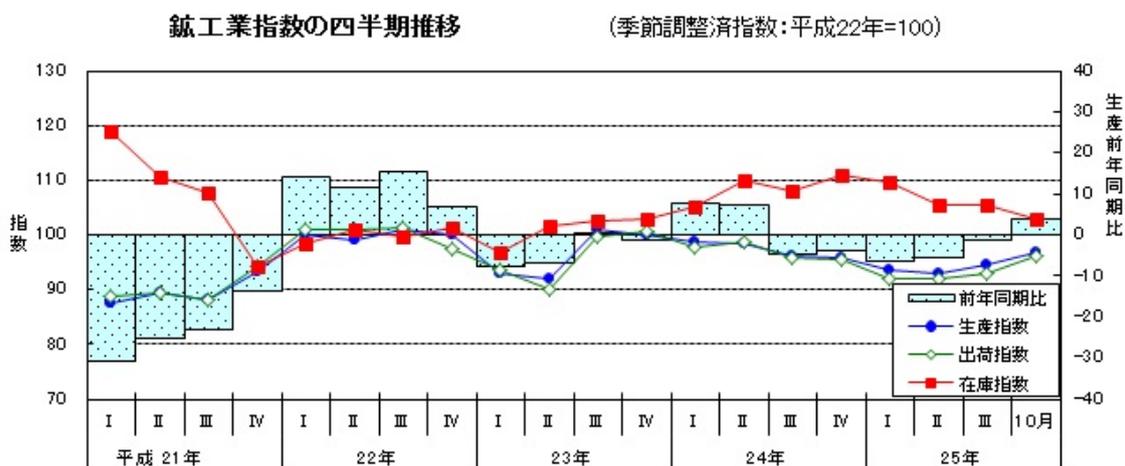
○概要

産業構造の変化等による経済実態を反映するため、5年ごと（西暦の末尾が0または5の付く年）に鉱工業指数の基準年を更新する改定を行う。リーマンショック及び震災等による構造変化を反映した国の改定結果（6月公表）を受け、国の作成方針等に沿って県の基準も同様に改定する。

○主な改正内容

- 業種分類の見直し
平成20年の日本標準産業分類改正を踏まえ、同分類における中分類を原則とし、採用品目数及びウェイトを考慮した組み換えを実施
- 採用品目及びウェイトの見直し
平成22年工業統計結果等を参考に、189品目を選定（H17基準では190品目）するとともに、鉱工業全体を1万とした場合の付加価値額等のウェイトを再算定

<参考1> 四半期推移及び在庫循環図



☆ **在庫積み増し局面 (景気拡大期) ← 今月はここに該当**

需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対処する。

・ **在庫積み上がり局面 (景気後退初期)**

供給が需要より多くなってくると、生産の伸びが鈍化し、在庫が適正水準を超え、在庫の積み上がりが起こる。

・ **在庫調整局面 (景気後退期)**

適正水準を超えた在庫を減らすため、生産を抑え、在庫調整を図る。

・ **意図せざる在庫減局面 (景気拡大初期)**

需要の増加に生産が追いつかず、在庫が減少する。